

教室(診療科)紹介 (89)

産婦人科医は女性の生涯の主治医

医療センター大森病院 産婦人科

教授：森田峰人
 田中政信
 准教授：片桐由起子
 前村俊満
 講師：間崎和夫
 土屋雄彦 (医局長)

産婦人科はヒトの誕生の時から深くかかわり、女性の生涯を通じて病気や健康の相談に応じることができる診療科である。女性のライフスタイルは大きく変化し、それにと

もない女性の病気や悩みも変化している。女性の一生は、小児期、思春期、成熟期、更年期、老年期に分けることができるが、われわれは、これらのライフステージにおいて、妊娠・出産にかかわることから、女性の快適な社会生活を妨げるさまざまな疾患の治療まで、非常に幅広く、かつ、お互いに複合的な要素を多く含んだ分野を受け持って、女性の健康を守り続けている。産婦人科の診療の大きな柱は、周産期、腫瘍、生殖内分泌の3つの部門に分けられる。周産期部門は妊娠・分娩や新生児を中心とした医療、腫瘍部門は主に子宮癌や卵巣癌などの悪性腫瘍に対する医療、生殖内分泌部門は不妊症、不育症、内視鏡治療や遺伝カウンセリングなどに対する医療を提供することを目的とし、各部門に高い専門性を持たせて診療・研究・教育活動を行っている。東邦大学医療センター大森病院（以下、大森病院）産婦人科は、教授2名、准教授2名、講師3名（出向中1名）、助教11名（留学中2名）、レジデント5名、准修練医2名、大学院生2名の総勢27名が在籍し、日々の診療（産科、婦人科、生殖医療など）、研究、教育に取り組んでいる。

産科・周産期部門

産科部門は国内屈指の診療実績を誇る。年間分娩数が約1000件で、平成9年10月に総合周産期母子医療センターの指定を受けて以来、都内および周辺地域からのハイリスク妊娠・分娩管理の母体搬送に24時間対応している。



医療センター大森病院産婦人科医局員

婦人科腫瘍部門

婦人科年間総手術件数は約500件で、良性腫瘍が450件、悪性腫瘍が50件である。特筆されることは、この良性腫瘍450件中350件は内視鏡下に行われており、悪性が疑われる症例、強度の癒着を伴う症例や巨大な腫瘍症例でない限り、ほぼ内視鏡下に行われているといっても過言ではない。このため内視鏡下手術、特に腹腔鏡下手術の充実が当教室の特徴の1つであり、先進的な手法を率先して取り入れるなど興味の多い分野と言える。

生殖医療部門

近年の晩婚化、晩産化から、生殖補助医療へのニーズは高まるばかりで、多くの施設で不妊治療が行われているが、当教室では泌尿器科医師と連携したりプロダクションセンターを設置することで、夫婦の問題点を全体として把握した一貫性を持った治療が行われている。生殖補助医療として、体外受精、顕微授精などが行われ、年間採卵周期数は500件で、全国80大学中1位の実績を誇る。

臨床遺伝部門

近年、ヒトゲノム解析(DNA、遺伝子など)研究の進歩に伴い、遺伝医学の発展は目覚ましく、臨床診療の各分野において広く関わりを持つようになってきている。産婦人科において遺伝医療との関わりは深く、出生前診断・胎児診断・生殖医療・腫瘍などの各領域で遺伝学的対応を求め

られる場面が急増している。最近では、特に遺伝カウンセリングの重要性が注目されており、染色体検査、遺伝学的検査、診断の際には不可欠となっている。全国の特定機能病院をはじめとする高度医療機関においては遺伝子医療部門の設立がすすんでいる。大森病院は臨床遺伝専門医研修施設として認定を受けており、産婦人科内に実際の外来を設けている。主に周産期(出生前診断・胎児形態異常など)、生殖医療に関連した遺伝カウンセリングを、臨床遺伝専門医が担当する外来診療をしている。また、他科領域に関係する遺伝性疾患についての相談(再発危険率など)に対し、当該科担当医とともに対応している。

おわりに

大森病院産婦人科は全国的にも有数の診療実績を誇っており、患者さんに優しく安全で質の高い地域医療を提供するために、高度先進医療を積極的に取り入れ、診療・研究を行っている。これからも医療技術のさらなる向上を目指して、女性の健康を守り続けるために、また、患者さんにわかりやすい医療を提供するように、日々地道に努力を続ける所存である。

※東邦大学医療センター大森病院産婦人科ホームページおよびプロダクションセンター(婦人科)ホームページから東邦医学会雑誌用に改変して掲載

(教授：森田峰人)